

NPO法人プラネット映画保存ネットワーク 年間報告

2022年度(第4期)

2022年5月1日～2023年4月30日

2022

ご挨拶

今期も新型コロナ感染症の影響は少なくありませんでしたが、シアター内の席数制限を解除し、臨時休館することなく神戸映画資料館を運営することができました。

上映会などのイベントについては、前期に統一して文化庁補助金「Arts for the Future 2」を受け、充実した企画を実現できました。そして、映画の配給事業にも初めて挑戦しました。チャーリー・バワーズという約100年前に活躍し、その後世界的に忘れられていた映画人の作品を「NOBODY KNOWS チャーリー・バワーズ」というプログラムにまとめ、全国のミニシアターで公開しました。このような映画史に埋もれた作品の掘り起こしは、フィルムアーカイブ活動の一環といえます。

連携団体の神戸映像アーカイブ実行委員会が主催する神戸発掘映画祭においては、神戸映画資料館の新発掘作品の上映のほか、映画保存をテーマとするドキュメンタリー作品『フィルム 私たちの記憶装置 Film, the Living Record of Our Memory』(カナダ・スペイン/2021年/監督:イネス・トハリア・テラン)や、神戸映画資料館も映像を提供した9.5mmアマチュアフィッテージを使ったモンタージュ作品『9 1/2』(ルクセンブルグ/2022年/製作:INEDITS Amateur Films / Memory of Europe)など、海外のフィルムアーカイブの取り組みを、NPO法人映画保存協会の協力により紹介することができました。

調査研究の面では、3年目となる文化庁の「メディア芸術アーカイブ推進支援事業」のもとで「神戸映画資料館所蔵アニメーションフィルムのデジタルアーカイブ事業」を実施しました。この事業は2023年度も継続します。

資料収集に関しては、長野のフィルムコレクターなどから貴重かつ大量のフィルムの寄贈を受けました。収蔵庫には受け入れるスペースがもう無いため、安井がプラネット映画資料図書館の大坂の事務所を引き払い、神戸で新たな場所を確保することでそれらのフィルムを収めました。現在、そのフィルム整理と調査を進めています。

映画関連施設の閉鎖や、コレクターの死去、映画ファンの生前整理など理由は様々ですが、資料寄贈のお申し出が年々増えており、映画資料保存の意識の高まりを感じます。公的機関のような理想的な収蔵環境も無く人員も常に不足していますが、われわれができるることを、できるやり方で行っていきたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

神戸映画資料館の開設以前から多面的に応援していただき、当法人の理事を務めてくださった映画評論家の山根貞男さんが今年2月20日に永眠されました。長年のご厚意に感謝いたします。

NPO法人プラネット映画保存ネットワーク

理事長 安井喜雄

専務理事 田中範子

設立趣旨書

フィルムアーカイブ活動(映画フィルムの収集・保存・公開)を行う日本国内の主たる機関としては、国立の「国立映画アーカイブ」、地方自治体が運営する「広島市映像文化ライブラリー」「京都府京都文化博物館」「川崎市市民ミュージアム」「福岡市総合図書館」などがあります。しかしながら、法定納入制度のような仕組みがない映画フィルムの保存と収集は、映画会社の方針や社会情勢に左右される部分が多く課題は多く残っています。その一方で愛好家の収集により失われることをまぬがれたフィルムも多く、その価値が認められつつあります。

「神戸映画資料館」は、まさにそういう個人の収集活動から始まったものです。その時代の評価や人気にもとらわれずに収集してきたことにより、忘れられていた作品や軽視されてきたジャンルの映画なども保存されてきました。それが現在、失われていたと思われていた幻の映画を多数発掘することにつながっています。

1974年、わたしは映画好きの仲間とサークル団体「プラネット映画資料図書館」を大阪に設立しました。それから数十年にわたって多数の映画フィルム、書籍、パンフレット、ポスター、機材など、映画に関するあらゆる種類の資料を集めてきました。しかし、所蔵資料が質量ともに充実するにつれ、収蔵する場所の確保や、資料の整理が追いつかなくなっていました。そのような状態であったころ、神戸・新長田において、われわれの映画資料をもとにした文化施設づくりが、兵庫県と神戸市の協力を得て進展し、2007年3月に「神戸映画資料館」が開館するに至りました。立ち上げ初期は「新長田まちづくり株式会社」が「兵庫県商店街活性化事業」を活用する事業主体となり、わたしが代表をつとめる「神戸プラネット」が運営委託を受け、その後2009年からは「神戸プラネット」の独立採算事業として運営をしてきました。

2014年には「一般社団法人神戸映画保存ネットワーク」を設立し、文化庁の「美術館・歴史博物館重点分野支援事業」のもと、これまで立ち後れていたフィルムの網羅的な調査が始まりました。ようやく調査研究を行えるようになりましたが、土台である神戸映画資料館の運営は脆弱なままで、有志の個々人の献身に頼らざるを得ない状態です。近年、映像分野だけに限らず、アーカイブの重要性の認識が高まっていますが、アーカイブとは文化を未来に繋ぐためのものであり、長期的な視点と運用が不可欠です。

フィルムアーカイブという公共性の高い活動を今後も継続して行うためにはNPO法人化が最良の策であると考え、これを機に、神戸映画資料館を運営する任意団体「神戸プラネット」とその調査部門である「一般社団法人神戸映画保存ネットワーク」を一体化したいと考えます。活動の全体を市民に知つてもらうことで理解と協力、参画を促し、柔軟性のある「市民参加型フィルムアーカイブ」をともに作っていきたいと考えています。

2019年9月10日

特定非営利活動法人 プラネット映画保存ネットワーク

設立代表者 安井喜雄

活動報告

映画フィルム・映画関連資料の収集・保存

　　フィルム　　寄贈:4件

　　映画関連資料　購入:5件　寄贈:13件　献本:31件

映画に関する調査研究事業

令和4年度文化芸術振興費補助金(メディア芸術アーカイブ推進支援事業)

「神戸映画資料館所蔵アニメーションフィルムのデジタルアーカイブ事業」の実施。

- ① 神戸映画資料館所蔵の古典アニメーション(35mm、16mm、9.5mm)をデジタル化
- ② デジタル化した動画をもとに内容調査
- ③ 書籍「日本アニメーション映画史」作品目録 新版データベース化
- ④ 公開と発表

映画上映会

新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなかつたが、文化庁補助金「Arts for the Future2」を受けることで、充実した事業を行うことができた。初の配給プログラム「NOBODY KNOWS チャーリー・バワーズ」は、全国のミニシアター 18館、および2つの映画祭で上映された。

主なプログラム

- ・ マルクス兄弟特集
- ・ 連続講座:20世紀傑作映画 再(発)見
- ・ プラネットシネマテーク2022(所蔵作品特集)
- ・ 映画製作委員会と映像集団「8の会」の仕事
- ・ 前田憲二監督の長編記録映画 連続上映
- ・ 国立映画アーカイブ所蔵 外国無声映画傑作選
- ・ 井口奈己監督特集 『こどもが映画をつくるとき』特別上映
- ・ 知られざるドキュメンタリスト ペーター・ネストラー
- ・ 布村建ともうひとつの東映映画
- ・ アニメーターの幻灯画
- ・ 帝国日本映画と朝鮮
- ・ NOBODY KNOWS チャーリー・バワーズ (全国配給)

映画上映会　　32企画

映画関連資料の公開　　展示替え1回(3月)

映画講座、トークショー　　17回

活動拠点:資料から辿る自主上映史

(事業主体:神戸映像アーカイブ実行委員会)

神戸市「まちの再生・活性化に寄与する文化芸術創造支援助成対象事業」

新長田映画講座(主催:神戸市)　　6回(隔月)

シアターレンタル　　53回

資料貸し出し　　16回

映画配給　　20回

物販　　258日(10:30~18:00)

喫茶コーナー　　258日(10:30~18:00)

寄附へのお礼

以下の皆様にご寄附をいただきました。

大澤謙二郎 様／岸野 令子 様／衣笠映画会 様／ぴんくりんくフィルム 様／匿名4名

ほかに、「つなぐKOBEアート募金(神戸市ふるさと納税)」を通じてもご寄附をいただきました。

記してここに感謝いたします。

2022年度の会員名簿

理事会 4名

安井 喜雄(理事長／兵庫県)

田中 範子(専務理事／兵庫県)

山根 貞男(理事／神奈川県)

宍田 正幸(監事／兵庫県)

正会員 7名(理事を除く)

いいを じゅんこ(クラシック喜劇研究家)

板倉 史明(映画研究／神戸大学)

上田 学(映画研究／神戸学院大学)

金 稔万(映画作家)

釜 利子(映画作家)

橋本 英治(映画研究)

松山 ひとみ(アーキビスト)

賛助会員 76名

菅野 賢治／小川 健治／寺本 雄三／八朝 裕樹／小川 翔太／土本 基子／羽鳥 隆英／山際 永三／川島 信治／岡 陽子／土居 安子／正岡 健二／北村 皆雄／奥所 清美／奥所 千恵子／畠 あゆみ／伊藤 久美子／野口 一男／村山 匠一郎／太田 耕一／甲斐 史子／田邊 高英／佐野 明子／天羽 均／高槻 真樹／神谷 伸子／天宮 遥／歓峯 浩二／宇野田 尚哉／水野 直樹／木村 光／吉野 大地／季村 敏夫／藤岡 朝子／加藤 初代／浅川 志保／浦辺 宏昌／有賀 千洋／糀山 幸士／井場 宏／木下 信一／文字 義孝／植木 豊／金原 正宏／川島 智子／服部 光真／堀 哲也／エイドリアン・ウッド／池田 俊己／大橋 さと子／北波 英幸／常石 史子／鷺谷 花／友田 義行／長 志珠絵／崎田 嘉寛／亀海 史明／森田 典子／波多野 ゆき枝／ダグラス・ジェーソン／晏 妮／玄 紀子／オリエント・R・マインスキー／吉川 孝／塩見 正道／土屋千佳／林 雅成／杉山 精一／岡田 光司／蔡曉林／小田 良之／匿名5名

収支報告

I 収入の部 17,011,824 円	
入会金・会費収入	455,000 円
寄付金	341,335 円
寄付金(ふるさと納税)	391,000 円
非営利事業補助金	6,561,000 円
非営利事業実施上の収入	1,827,000 円
非営利事業アーカイブ事業	60,500 円
収益事業売上	7,375,921 円
受取利息	68 円
II 支出の部 17,709,936 円	
事業費 10,467,909 円	
人件費(収益)	560,000 円
通信費(収益)	51,642 円
荷造運賃(収益)	321,247 円
外注(収益)	2,163,050 円
支払報酬(収益)	788,008 円
プリント費(収益)	1,670,618 円
宣伝広告費(収益)	103,334 円
旅費交通費(収益)	439,589 円
消耗品費(収益)	40,634 円
資料購入費(収益)	6,816 円
人件費(非営利)	710,317 円
外注(非営利)	3,261,190 円
支払報酬(非営利)	143,000 円
旅費交通費(非営利)	148,570 円
消耗品費(非営利)	22,269 円
資料購入費(非営利)	37,625 円
管理費 7,242,027 円	
水光熱費(収益)	549,568 円
資料館家賃(収益)	2,601,996 円
新聞図書費(収益)	98,472 円
印刷製本費(収益)	102,410 円
通信費(収益)	138,446 円
修繕費(収益)	848,700 円
交際費(収益)	46,758 円
支払手数料(収益)	58,061 円
諸会費(収益)	100,265 円
廃棄物処理(収益)	49,752 円
収蔵庫家賃(非営利)	2,278,980 円
新聞図書費(非営利)	23,559 円
印刷製本費(非営利)	15,060 円
修繕費(非営利)	330,000 円
税引前当期正味財産増減額	▲ 698,112 円
法人税、住民税及び事業税	72,000 円
当期正味財産増減額	▲ 770,112 円
前期繰越正味財産額	▲ 1,581,517 円
次期繰越正味財産額	▲ 2,351,629 円

貸借対照表

I	資産の部	10,370,404 円
1	流動資産	
	収益事業現金	0 円
	非営利活動小口	187,175 円
	郵便貯金(預かり金用)	8,359,216 円
	郵便貯金(大阪貯金事務)	1,134,548 円
	三菱UFJ(非営利活動用)	338,435 円
	未収入金	351,030 円
2	固定資産	
	固定資産合計	0 円
II	負債の部	12,722,033 円
1	流動負債	
	未払費用	0 円
	短期借入金	4,290,817 円
	未払法人税等	72,000 円
	預り金	8,359,216 円
2	固定負債	
	固定負債合計	0 円
III	正味財産の部	▲ 2,351,629円
	前期繰越正味財産	▲ 1,581,517 円
	当期正味財産増加額	▲ 770,112 円
	負債及び正味財産合計	10,370,404 円

NPO法人プラネット映画保存ネットワーク
2022年度(第4期) 年間報告

発行日:2023年7月31日
発行:NPO法人プラネット映画保存ネットワーク
〒653-0036
神戸市長田区腕塚町5丁目5番1-201
アスタくにづか1番館北棟2F
神戸映画資料館
Tel 078-754-8039
e-mail info@kobe-eiga.net
<https://www.kobe-eiga.net/>
